

ガールスカウト・ジャーニー

和田 照子

「私は、ガールスカウトです」私が言うと、必ず驚かれる。

「え、大人なのに『ガール』スカウトなんですか？」と。

ガールスカウト運動は、特定の宗教と関係なく、全世界146の国と地域に広がっており、ガールスカウトとして活動する少女と若い女性は世界中で1,000万人に上るが、彼女たちを支える私のようなボランティアの成人女性もまた非常に多い。イギリスで生まれてから既に100年を超える歴史の中で、ガールスカウトは、世界の隅々、社会の各層において、さまざまな形でリーダーシップを発揮する女性を輩出し続けている。

全世界のガールスカウトの教育プログラムは、パトロールと呼ばれるチームによる活動、成長段階に合わせた自己開発、体験を通じた学び、異世代間交流、地域とのつながり、社会奉仕、野外活動などの要素を必ず含むことが求められている。そして、ガールスカウト教育に携わるボランティア自身も、必然的に、教育についてだけでなく、非営利組織の運営についても学び、成長し続ける。私自身30代半ばでガールスカウト日本連盟の理事になり、40歳になる前に会長を務めた過程で、大変な苦労をしながらも、普通の勤め人にはなかなかできない貴重な体験をし、成長した。そして3年前に世界連盟の理事になってから、さらに視野も経験も広がった。

ガールスカウトになったことで、私は、生涯にわたって、学び、成長し続ける貴重なチャンスももらったと思っている。教育を受ける立場として始まった私のガールスカウト・ジャーニーは、やがて教育を担う立場へ、今は教育の担い手を育て支える立場へと進化してきた。これからは、少女や若い女性が世界へ羽ばたくための「ジャンプ台」となり、彼女たちが自身の声を社会に伝え、思い描く未来を実現する力を発揮するための「ブースター（能力を増強する装置）」となることを目指している。



PROFILE

わたてるこ：1995年東京大学大学院法学政治学研究科修了、経済団体連合会（経団連）事務局に入局。2002年よりフルブライト奨学金を得てジョージタウン大学留学。帰国後、経団連に復職。経団連で働く傍ら、2005年から2011年まで、ガールスカウト日本連盟の理事、副会長、会長を歴任。2011年よりガールガイド・ガールスカウト世界連盟理事。